

## 【編集後記】「地震はいつどこで起きるか分からない」

首都直下地震や南海トラフ地震の近い将来での発生が懸念されており、その対策の重要性が言われている。実際、その通りだと思うが、一方で、それ以外の地域では、かえって大地震発生の危険性が低いかのごとく思われがちなのではないだろうか。かつて、東海地震の発生がもたらす危険性の中で、突然、阪神・淡路大震災が起き、対応が混乱したことがあったが、今回の熊本地震でも同じようなことが言えるのではないか。まさか熊本で地震が起きるなどとは思ってもみなかった、というのが多くの国民の率直な思いだろう。

日本には2,000以上の活断層があると言われているが、それ以外にも地表に現れにくい未知の活断層も少なくないようだ（平成12年の鳥取県西部地震や平成20年の岩手・宮城内陸地震では地震の発生によって活断層の存在が分かった）。それどころか、昭和58年の日本海中部地震によって、日本海にもプレート境界があることが分かったくらいである。つまり、地震の予知は、現状では不可能であり、首都直下地震や南海トラフ地震が懸念される地域だけでなく、日本全国どこにおいても、いつなんどき大地震が発生するかもしれないということなのである。

地域防災の関係者は、改めてそのことを肝に銘じなければならない。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2016年8月号（通巻9号）

■発行日 平成28年8月25日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 佐野 忠史

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (3591) 7130

URL <http://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社